

## 工 養護老人ホーム（鹿島荘）



### (1) 経緯

養護老人ホーム鹿島荘は、前身の「大町市養護老人ホーム」が老朽化したため、北アルプス地域の住民の要望にこたえ、昭和50年6月に当地域に共同設置することを決定し、昭和51年6月に竣工しました。

平成23年7月には施設の老朽化等により全面改築事業に着手、平成25年3月に全室個室化となり竣工しました。（利用定員:措置50人、短期6人）

全面改築が完了したことに伴い、鹿島荘の運営状況を明確にするため、平成26年度以降、グループホームひだまりの家とともに一般会計から老人福祉施設等事業特別会計へ移行しました。

### (2) 現状と課題

全面改築事業により全室個室化となり、老人福祉法の規定に基づく施設として入所者の尊厳が保たれ、心身ともに健康で心豊かに生きがいを持って充実した生活を送れるよう配慮した施設環境となっています。

しかし、入所者の高齢化、要介護認定者の増加及び日常生活動作の低下などにより、食事、排泄、移乗等、職員による介助負担が年々増加しており、要介護認定を受けた入所者は、外部サービスの通所介護サービス等を利用しています。また、近年は措置入所の待機者がなく、入所定員に満たない状態となっています。

一方で、介護職員等の人材確保も困難な状況であり、利用者のニーズに適切に対応するための人員配置や措置者の円滑な受入れが課題となっています。

人口減少、少子高齢化が進行する中、社会情勢の変化に対応した入所定員や適正な人員配置など、施設運営のあり方を総合的に検討する必要があります。

北アルプス地域内唯一の養護老人ホームとして、今後もさらに、入所者の生活支援の向上に努めるとともに、地域の住民やボランティアとの交流を通じて、地域に開かれた施設、入所者の自立を支える施設として運営をしていく必要があります。

### (3) 今後の方針と施策

入所者の心身状態の変化や尊厳に配慮しながら、心の通った生活支援及び居住支援の提供を図るため、各種の職員研修を行い職員の資質向上に努めます。

地域との関わりにおいては、地域住民をはじめボランティアなどとの交流を積極的に行い、いっそう地域に根ざした明るく開かれた施設づくりを進めます。

また、不足する職員確保に努めるとともに、社会情勢の変化に対応した適正な入所定員や人員配置など、施設運営のあり方を総合的に検討していきます。



養護老人ホーム鹿島荘

#### ■SDGsの目標との関連

	SDGs17の目標	関連目標
	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	低所得で在宅での生活が困難な方の生活環境の確保
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	入所者の健康管理と医療機関等と連携した安心な暮らしの提供
	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う	すべての入居者に配慮した施設環境の整備